

ソウル五輪・日韓ワールドカップにおける韓国社会の変容
The transformation of South Korea society through the Olympic Games and World Cup
1 K08B129-9 土橋恵太
指導教員 主査 石井昌幸 先生 副査 寒川恒夫 先生

【はじめに】

近年、韓国の世界への進出が目覚ましい。それは経済・企業においてもいえるが、スポーツにおいても同様である。多くの種目で世界のトップクラスに位置している選手が多く存在している。世界からの注目度は高まるばかりだ。

韓国は第二次世界大戦後の 1948 年に成立した比較的新しい国である。また、日本との関係も密接であり、大韓民国成立以前は日本によって植民地化されていた歴史がある。それに加えて、同一民族であるにもかかわらず、北緯 38 度線を境に南北に分断されており、北には朝鮮民主主義人民共和国が成立している。

この非常に複雑な歴史、また韓国として比較的浅い歴史にも関わらず、なぜここまで世界に注目されるようになったのか。特にスポーツにおける「強さ」にはどのような要因が含まれているのか考察する。

【第一章】

北朝鮮と韓国を比較した時、今現在の経済規模に大きく差がある。もちろん韓国の方が圧倒的な経済規模を誇る。この違いはどこから生まれたかと言えば、1948 年の成立以降の歴史から生まれたと見てよいだろう。この建国前後からソウル五輪前までの時代を見ることで、韓国がどのような背景をもって今現在に至っているのかが理解できる。特にスポーツ史を中心にしながら時代を見ていく。しかし、スポーツ史を中心にみていった結果、国家の歴史とスポーツの歴史は密接な関係があることに気づく。外交関係を改善するため、民族の誇りを高めるために国家が先導してスポーツを強化していったのである。

【第二章】

現在の韓国スポーツを考えるにあたって、歴史的に大きな影響を与えたイベントが 1988 年ソウル五輪と 2002 年日韓共催のサッカーワールドカップである。

1988 年ソウル五輪は、韓国にとって初めての大規模な国際大会であり、アジアの中でも 1964 年の東京五輪に次ぐ 2 番目のオリンピックであった。北朝鮮との関係を見直す、また今後の韓国の世界的な注目を集める上で非常に重要な大会であった。単なるスポーツ大会ではなく、国の威信を賭けた大会だったのである。それを韓国は見事成功に導いた。この成功体験が、今現在の韓国としての存在意義を確立するための基

礎となった。

2002 年日韓サッカーワールドカップにおいても同じことが言える。植民地化されていた歴史を持つ韓国と、植民地化していた日本が共同開催で世界大会を行う意義は非常に大きい。これも世界的な注目を集めた大会であった。

【第三章】

第二章で見てきたように、韓国にとってソウル五輪や 2002 年ワールドカップは国自体のイメージや経済成長を底上げする非常に大きな要因となった。それと同時に、韓国国民としての自覚、つまりナショナリズムも形成していったと考える。人種・言語・文化的な違いのほとんどない北朝鮮や周辺諸国と、どのような違いをもってナショナリズムを形成していったのか。それは「近隣他国との徹底的な比較による優位性」であった。その他国との比較で韓国が優位であることを実証してくれたのがスポーツだったのである。これが韓国でスポーツに目を向け、強化に取り組んだ大きな理由の一つであると考えられる。

【おわりに】

「周辺他国との比較による優位性」という韓国独特のナショナリズムは、今現在の韓国社会全体を示しているといえる。

スポーツでは、強化する種目を厳選し、世界でトップが競えるような選手だけを育成する。またエンターテインメントでは K-POP や韓流スターなど、世界を市場とした戦略が垣間見える。

常に世界に目を向け、世界との競争で勝っていくことが、国の繁栄につながり、そして個人の幸福につながるという考え方だ。そのためにはスポーツにおける勝利至上主義に代表されるような考え方を持たざるを得ない。人口も資源も少ないからだ。

今現在の韓国社会は複雑な歴史、そしてスポーツにおける躍進を遂げた経験によって成り立っているといえる。